



ハウレンソウ栽培における
おがくず鶏糞堆肥の施用基準

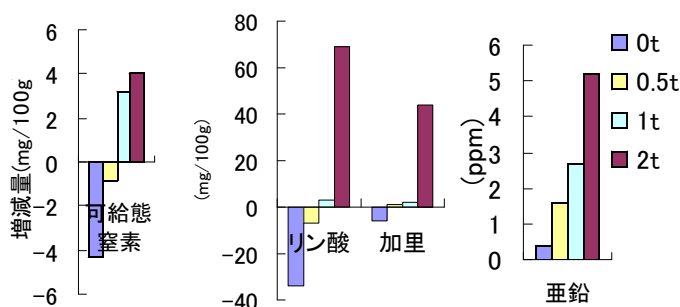
土づくりに用いられている有機物資材の中でも、鶏糞堆肥は窒素や加里の含有量が高く、多量に連用すると作物に障害を起こしたり環境に悪影響を与える心配があります。そこで、おがくず鶏糞堆肥（以下鶏糞堆肥）の連用が土壌の化学性の変化や作物の生育・収量に及ぼす影響を調査し、鶏糞堆肥および化学肥料の適正施用量を検討しました。

◆試験方法

供試堆肥：おがくず鶏糞堆肥（水分26%，現物中N 3.2%，C 23.5%，P₂O₅ 3.0%，K₂O 5.4%，Zn約300ppm）

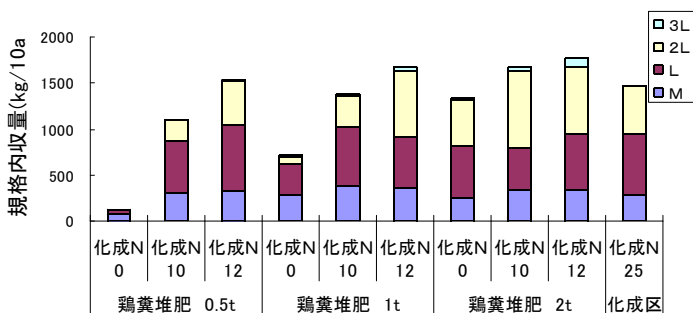
耕種概要（2002年度）：鶏糞堆肥，化成肥料施用10月10日，播種10月11日，収穫12月16日，品種サンピア

◆結果



鶏糞堆肥を年間2t/10a，4年間連用すると，作付前の土壌と比べ，特に，可給態窒素，加里，リン酸，亜鉛の増加が認められ，年間施用量1t/10a以下では土壌の化学性に与える影響が小さいことがわかりました（図1）。

図1 鶏糞堆肥施用量と連用後の土壌中成分の増減量



ハウレンソウの収量は，鶏糞堆肥を年間1t/10a 連用した場合，化成窒素肥料を10～12kg施用することで標準の化成肥料栽培と同等の収量が得られました（図2）。

図2 鶏糞堆肥・化成肥料施用量別のハウレンソウ収量

これらのことから，鶏糞堆肥の施用量は年間1t/10a以下が環境へ与える影響が小さく，この場合，年内どりのハウレンソウ栽培において，県の施肥基準（窒素，リン酸，加里：25，17，20kg/10a）より窒素肥料を10kg/10a程度減らすことができます。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 生産環境担当

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>

